

トピックス 詳細

HOME トピックス 一覧 詳細

【その他】 2014年09月18日

第11回環境先端技術セミナー「南極から観る地球環境」を開催します【9月28日(日)】

農学部附属環境先端技術センターでは、第11回環境先端技術セミナーを以下のとおり開催します。今回は、国立極地研究所の渡邊研太郎教授をお招きし、「南極から観る地球環境」の演題で南極を中心とした地球環境に関するご講演をいただきます。

参加無料ですので、本研究分野にご興味のある方は、ぜひご参加ください。

日時

平成26年9月28日(日)午後2:00～3:30

場所

愛媛大学農学部 本館3階 多目的ホール (樽味キャンパス内)
〒790-8566 松山市樽味3-5-7

参加費

無料(事前申込みは不要です。)

プログラム

◆開会の挨拶

仁科 弘重 (愛媛大学農学部 部長・教授)

◆ご講演

渡邊 研太郎 (国立極地研究所教授・国際企画室長)

「南極から観る地球環境」

【講演要旨】

南極は文明圏から最も離れた地域として、また地球システムの最も大きな冷源として、地球環境を考える際に極めてユニークかつ重要な地域といえます。国際地球観測年(IGY)を契機に1956年から開始された日本の南極観測事業では、インド洋区の南大洋や昭和基地を中心とする地域で、多岐にわたる科学分野の調査・研究を続けてきました。地球環境に関する観測として、気象庁による地上気象観測が第1次隊から開始されているほか、オゾン観測、二酸化炭素濃度観測等も行われ、50年を超える観測データが蓄積されている項目も少なくありません。成層圏オゾンのフロンによる破壊の結果である、オゾンホールが発見につながった最初の報告は第23次隊での観測によるものでした。一方、昭和基地から内陸約1000キロメートル南に位置する「ドームふじ」基地では、3000メートル余りの氷床コアが採取され、約72万年前までの大気成分等の分析が進められています。この試料からは東南極の過去の気候の復元がなされ、南極のほかの基地での氷床掘削からのデータとともに、IPCCでの将来の気候予測に利用されています。本講演では、地球環境を考える上で様々な様相を見せる南極域での現象を、観測隊による調査・研究成果を紹介しながら解説します。

第11回 環境先端技術セミナー 参加無料

～南極から観る地球環境～

【日時】 平成26年9月28日(日)
午後2:00-3:30

【場所】 愛媛大学農学部
本館3階多目的ホール

【プログラム】

◆開会の挨拶
仁科 弘重 先生(愛媛大学教授・農学部 部長)

◆ご講演
渡邊 研太郎 先生(国立極地研究所教授・国際企画室長)

【講演要旨】
南極は文明圏から最も離れた地域として、また地球システムの最も大きな冷源として、地球環境を考える際に極めてユニークかつ重要な地域といえます。国際地球観測年(IGY)を契機に1956年から開始された日本の南極観測事業では、インド洋区の南大洋や昭和基地を中心とする地域で、多岐にわたる科学分野の調査・研究を続けてきました。地球環境に関する観測として、気象庁による地上気象観測が第1次隊から開始されているほか、オゾン観測、二酸化炭素濃度観測等も行われ、50年を超える観測データが蓄積されている項目も少なくありません。成層圏オゾンのフロンによる破壊の結果である、オゾンホールが発見につながった最初の報告は第23次隊での観測によるものでした。一方、昭和基地から内陸約1000キロメートル南に位置する「ドームふじ」基地では、3000メートル余りの氷床コアが採取され、約72万年前までの大気成分等の分析が進められています。この試料からは東南極の過去の気候の復元がなされ、南極のほかの基地での氷床掘削からのデータとともに、IPCCでの将来の気候予測に利用されています。本講演では、地球環境を考える上で様々な様相を見せる南極域での現象を、観測隊による調査・研究成果を紹介しながら解説します。

【問い合わせ】 愛媛大学農学部附属環境先端技術センター 山下
TEL 089-946-9170 FAX 089-946-9180
E-mail: m-yama@agr.ehime-u.ac.jp



日本の南極観測基地、昭和基地(南緯69度、東経39.5度)

問い合わせ先

愛媛大学農学部附属環境先端技術センター 山下

TEL: 089-946-9970

FAX: 089-946-9980

E-mail: m-yamas@agr.ehime-u.ac.jp

セミナーポスター (PDFファイル 874KB)

<農学部>

[前のページに戻る](#)

[ページの先頭へ戻る](#)